

2019年度緩和ケア部会 ピアレビュー WG4

横浜労災病院・済生会横浜市東部病院・
昭和大学横浜市北部病院・昭和大学藤が丘病院

WG4(横浜労災病院 昭和大学横浜市北部病院 済生会横浜市東部病院 昭和大学藤が丘病院)

施設名	横浜労災病院	昭和大学 横浜市北部病院	済生会横浜市東部病院	昭和大学藤が丘病院
最も評価されたポイント	<ul style="list-style-type: none"> ●苦痛のスクリーニング:がん患者すべてを対象として苦痛のキャッチが可能。リンクNsが集計を行うことで、自部署の患者の苦痛の把握や早期対応への意識づけができる。リンクNsとPCTとの情報共有・連携ツールになっている ●スタッフの入れ替わりのある中で安定したPCT介入依頼へつなげる取り組み(周知文の配布) ●図書館の整備、患者サロン等の患者・家族への教育・啓蒙活動が充実 ●専門/認定看護師のモチベーション保持 	<ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケアチーム:チーム依頼診療科医師や看護師に対して毎年アンケートを実施し、次年度の活動に役立てている。 ・緩和ケアセンター:緩和ケアに関する情報の集約と拡散に寄与している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床心理士が総勢8名おり、リエゾンチームも存在していることにより、手厚い患者支援が可能となっている。 ・がん看護関連の認定看護師が多数おり、それらのスタッフが相談部門に配置されていることから、診断期の相談からその後の意思決定支援までを通じ、支援体制が整備されている。 ・病棟で困っていることにも速やかに介入できる体制が整っている。 ・患者への緩和ケアの啓蒙活動が盛んに行われている。 ・相談支援が受けられることや患者サロンの関するポスター・リーフレットが多数掲示・設置されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介入ケースに対し、一人ひとりの患者のニーズを把握し、医師以外の職種(薬剤師・管理栄養士・リハビリスタッフ)とも協働・連携することによって、患者のQOLの改善に繋がっている。
早めに対策を講じたほうが良いと指摘されたポイント	<ul style="list-style-type: none"> ●スクリーニングからPCT依頼につなげるシステムを構築することで依頼件数を増加できるのではないか ●PCTとリハ部門との協働 ●ACP:患者・家族に合わせたタイミングで医療者が対応できるよう院内外の医療スタッフへの教育・啓蒙が必要 ●早い段階でACP話し合いができ、救急や各診療科と連携し速やかに緩和ケア施設へ橋渡しするシステムの構築 ●管理者を巻き込んだがん相談支援センターの院内周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・がん患者サロンのほかに、市民向けに緩和ケアに関する情報提供をする場があればなお良い。 ・ACPに関して:まず、医療者への教育が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケアチームへの依頼件数が少ない。 ・チームが多数存在(リエゾンなのか緩和精神なのか)しており、依頼側の判断に迷うことがある。 ・緩和外来の曜日が少ない。マンパワーが足りないことが考えられる。 ・ACPに関しては、体制の整備ならびに医療スタッフへの啓蒙活動は今後も継続・充実させていく必要あり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケアチームへの依頼件数が少ない。 ・現在、リンクナースの不在、がん看護外来が未設置である。 ・緩和ケアチームメンバーが兼務であり、介入にタイムラグが生じてしまう。
他施設でも導入が可能な工夫や取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ●毎年形式的に新採用職員に向けたPCT依頼方法の周知文の配布 ●がん相談支援センターやがんカウンセリング等のリーフレットやポスター掲示 	<ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケアチームに対するアンケート 	<p>『緩和ケア教室』のビデオ作製より多くの人に緩和ケアについて知っていただけるよう、病院HPや院内の待合で放映できるような内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当院からは特になし

あなたのWG全体で一番課題とされた点はどういう内容ですか。二つ挙げてください。次回部会の話し合いのテーマの参考にします。

1. 『ACP』について

- 1) 具体的に病院としてどのように進めていけば良いのか分からない。取り組みを始めている施設の話を知りたい。
①使用しているリーフレット②「いつ」「誰が」「どのタイミング」で開始しその後のサポートをしているか
- 2) ACPについての知識やその実践方法を院内で周知していくためのアプローチをどのように行なっていけば良いか。

2. 『緩和ケアチームへの依頼』について

- 1) 緩和ケアチームへの依頼件数(算定件数)を増加させるためのアプローチについて知りたい。
- 2) 緩和ケアチームの役割や運用の実際について他施設の状況を知りたい。
- 3) 「介入依頼」や「計画書」の運用について他施設の状況を知りたい。